

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京都 多摩市立大松台小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 206-0034

東京都多摩市鶴牧6-4

E-mail sekiguchi-toshiya@city.tama.tokyo.jp

Website http://schit.net/tama/esoomatsudai/?page_id=13

幼児児童生徒数 男子 281名 女子 261名 合計 542名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「すすんで学ぶ子」を学校理念として、ESDを「探究的な学習を進め、自己の生き方を考えられる」と捉え、ESDの実践を通して「よりよく問題を解決する資質や能力を育成し、学び方や考え方をみにつけさせると共に、主体的、創造的、協同的に学習に取り組む態度」の育成を目標とした。

具体的には、自然、街、環境、郷土を柱に、①自然に係わる活動、②わたしたちの街に係わる教育、③環境に係わる学習、④わたしたちの郷土に係わる学習を行った。

(2) 活動の詳細

※チェック事項1-2、2-1に対応

①自然に係わる活動

カブトムシの幼虫を地域の方から譲り受け、羽化、孵化させてまた地域の森に返す活動を行う。また、カブトムシの生息する地域の森の遊歩道整備や腐葉土づくりを行う。この活動を通して、動物や地域の環境、人に愛着をもち、意欲的にかかわろうとする態度を養う。

②わたしたちの街に係わる教育

社会のごみの学習からの発展として、地域や都のごみの排出量や分別の実態、3Rの実際等の身近な環境問題について関心をもち、各自のテーマに沿った問題解決学習を行う。環境問題について、自分の考えをもち、よりよい街づくりのために、自分ができることが何かを考え、実践していく力を育てる。

③環境に係わる学習

稲を育て、米を収穫する体験を通して、身近な食に関心をもち、生活を見直すことにつなげる。日本の米事情について関心をもち、お米の魅力やお米に関する問題等について調べ、自分たちにできることを考え、実践する。

発電を実体験する活動を通して生活の中の電気エネルギーの大きさを実感し、エネルギーを大切にするために自分ができることを考える。

食とエネルギーの学習を通してさらに調べたい課題を設定し、内容を深め、追究する。

④わたしたちの郷土

ニュータウン都市開発の成果と課題を知ることを通して、また、他の地域や国の取り組みを調べる探究的な活動を通して、自分たちの街のよりよい未来を考える探究的な活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。

情報収集したことを活かして、よりよい未来や社会のためにできることを考えるとともに、情報を共有したり発信したりする能力を育てる。



カブトムシの育て方について発表しているところ。(3年)



学区内の清掃工場の見学を通して、ごみ処理の現状を知る。(4年)



学区内公園の水田で、地域のボランティアの方々と稲作づくりを行う。(5年)



古道「からきだの道」を探索し、郷土の歴史について学ぶ。(6年)

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none"> ・地球教室(朝日新聞社) ・多摩清掃工場の概要 ・からきだの道ガイドブック 等

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程の中に、以下のように位置付けている。

- (ア) 持続発展教育・E S Dの視点で作成した横断的・総合的な指導計画に基づき、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程で探究的な学習を進め、自己の生き方を考えられるようにする。
- (イ) よりよく問題を解決する資質や能力を育成し、学び方や考え方を身につけさせると共に、主体的、創造的、協同的に学習に取り組む態度を育てる。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- (ア) 教育連携コーディネーターを活用し、地域の環境資源、人材資源を活かした探究活動を推進している。
- (イ) E S Dカレンダーおよび総合的な学習の時間の年間指導計画を作成し、活動が継続するよう工夫している。
- (ウ) 活動が形骸化しないよう、担当者が毎年見直し、ブラッシュアップを図るとともに次学年に申し送っている。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- (ア) 内部
年2回の教職員による評価をしている。2年前に活動計画の見直しをした。環境資源を生かした活動内容は広がったが、探究的活動にするための教員の指導方法に課題がある。体験して終わりにならない活動を徹底したい。
- (イ) 外部
年2回の地域・保護者による評価をしている。活動内容が広がり、その活動について学校便りなどでも広報していることから、高い評価を得ている。今後、活動においての保護者の協力をさらに仰ぎたい。

④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)
※チェック事項 2-2 に対応

- (ア) 次年度に取り組む意欲付けとしての一つ下の学年への発表、地域の介護施設での発表、保護者会等における保護者への発表、市の「こどもみらい会議」での発表、Web 交流での発表（今年度は佐賀県玄海みらい学園と実施）等の発表の場を設けている。
- (イ) 総合的な学習の時間に学んだことを、グループや個人でポスターセッション形式でまとめて発表させている。
- (ウ) 学校以外や他地域との交流によって、その反応や質問から自分たちの学びをさらに振り返ることができ、深めることに繋がっている。

⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）
(200字程度)
※チェック事項 2-3 に対応

- (ア) 交流として、地域の介護施設での発表、市の「こどもみらい会議」での発表、Web 交流での発表（今年度は佐賀県玄海みらい学園と実施）を実施している。
- (イ) 地域の環境保全団体「からきだの道の会」「一本杉公園みどりの会」「落合老人連合会」「パルテノン多摩学芸員」等とネットワークを連携し活動をしている。

⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

- (ア) 今年度は国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成は実施していない。
- (イ) 次年度、オリンピックパラリンピック友達プロジェクトの一環として、中国との交流を予定している（6年生）。
- (ウ) 国内のユネスコスクールとのWeb 交流も実施予定（5年生）。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

- | |
|---|
| <p>(ア) 総合的な学習の時間で取り組む探究活動に、ユネスコスクールの活動という視点を盛り込むことで、他地域や他団体の交流を通して活動している児童の視野が広まったり、深まったりする。</p> <p>(イ) 総合的な学習の時間を軸としたESDカレンダーを実行していくことは、クロスカリキュラムに他ならない。教員にとってカリキュラムマネジメントの視点から、学習をより有機的につながりをもって実施していくことに繋がり、学校経営の意識が高まる。</p> <p>(ウ) 児童にとって、(イ)のクロスカリキュラムは、学びの質を高め、未来へ生きるための資質・能力の向上に確実に寄与している。</p> |
|---|

- (3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

(ア) 3年生 わたしの町 すてきな人 ゆたかな自然

- ・虫の博士になろう
カブトムシやその生育環境を保全することを通して、動物に愛着をもち、動物や人と意欲的にかかわろうとする態度を養う。
- ・もっといきいきビオトープ
地域の自然に興味をもち、人や社会とかかわりながら、豊かな自然を大切にしようとしたりする態度を養う。

(イ) 4年生 広げよう！ わたしとわたしの町

- ・広げよう！きれいな町
身近な環境問題について関心をもち、よりよい街づくりのために何ができるかを考え、実践していく力を育てる。
- ・広げよう！やさしい町
高齢者、障がい者などに関わりながら、助け合う温かい地域作りの大切さに気づき、やさしい町とは何かを考え、やさしい町づくりに取り組む力を育てる。
- ・広げよう！未来へ
地域の一員として自分ができること、自分の役割を考え、実践していく資質や能力を育てる。

(ウ) 5年生 環境問題について考えよう

- ・食の私たちの暮らしを考えよう
米の魅力や問題等について調べ、できることを考え、実践することができるようにする。
- ・エネルギーと私たちの暮らしについて考えよう
電気エネルギーの大きさを実感し、エネルギーを大切にするためにできることを考える。
- ・これからのよりよい環境を考えよう
食とエネルギーの学習を通してさらに調べたい課題を設定し、追究する。
- ・米づくりをしよう
稲を育て、米を収穫する体験を通して、身近な食に関心をもち、生活を見直す。

(エ) 6年生 わたしたちの郷土

- ・郷土の今を知ろう
ニュータウン都市開発の成果と課題を知り、未来のよりよい街作りを考える。
- ・よりよい郷土にするために
他の地域や国の取り組みを調べ、自分たちの町のよりよい未来を考える
- ・わたしたちの郷土について発信しよう
情報収集したことを活かし、よりよい未来や社会のためにできることを共有したり発信したりする能力を育てる。